

都市再生委員会（第3回）の結果報告

1. 開催日時、場所、出席者

①日 時：平成21年10月20日（火）13:00～15:00

②場 所：長崎県庁中庭会議室

③出席者：都市再生委員会委員11名中7名出席

脇田委員長、有馬委員、伊藤委員、川添委員、外井委員、林委員、平野委員、
（欠席4名：梁瀬委員、米倉委員、山口委員、渡邊委員）

事務局：藤井副知事、椎木副市長他

2. 議 事

①都市再生に向けた基本方針（検討案）について

②区域別整備方針（検討案）について

3. 主な意見

3-1. 都市再生に向けた基本方針（検討案）について

①現状・課題

- ・観光が主要産業と書いてあるが、せいぜい5%ぐらい。波及効果も含めて1割弱。
- ・都心にマンションが建ち、都市景観が悪化している。課題に是非入れてほしい。
- ・新幹線、県庁移転、オリンピックなど、どうなっていくのだろうか。

②長崎の再生の考え方

- ・「長崎は観光のフロントランナーであれ」と認識。「さるく」で長崎が日本の体験型観光をリードしている。
- ・観光は、住んでいる人達が心地よく快適に暮らしている中に、「自分も参加させてください」というのが原点。
- ・タイトルとしては「国際ゲートウェイ」より「平和」の方がずっといいが、どこまでの覚悟があるのか。
- ・「平和」が重いかなという感じと、これまで逃げていたのかなという感じもあり、自分を叱咤激励する意味で入れておいたほうがいいと感じている。
- ・「平和」は、県・市に覚悟というものがあり、市民も含めて覚悟を決めた上で入れて欲しい。市民・県民に対する覚悟の確認みたいなものも素案に出てくればいいのか。

③地域の目指すべき姿・目標

- ・目標Ⅰの「平和・文化都市の魅力の強化」は大胆だと思う。平和をこれだけ表に出して良いのか。整備方針の中に掲げるのはいいのかなと思う。
- ・目標の掲げ方について、1番目に「都市魅力の強化」とし、中の項目に平和というのを入れるのかどうか、2番目に「回遊機能の強化」、3番目に「ゲートウェイ機能」という、分かり易いものにしたらどうか。
- ・長崎には「国際都市」の響きがない。別にキャッチフレーズがあってもいい。
- ・観光と一般の住民は分けたほうが良いのではないか。観光を重点的にやりながら一般の住民にも重なるものやっっていくのが良い。
- ・観光客が安心してできるだけ沢山廻れるようにすべき。
- ・人材に関する目標やプロジェクトが不足している。
- ・ひとつひとつ実行することが難しい。民の力が必要。民と官の合わせ方が大切。

④整備方針とプロジェクト

- ・整備方針④と⑤は、景観、コンベンション機能、都市機能の強化に再編すれば、住む人に対するメニューがより押し出せると思う。
- ・プロジェクトが多くて分かりづらい。メリハリに欠ける。
- ・ハードが中心でソフトが少ない。
- ・メニューは優先度とか目玉になるものをつくる必要がある。県と市がやるもの、市が単独でやるものとか、民間が主にやるもの等、カテゴリーの仕分けをしたほうが良い。

④-1 整備方針①『平和都市の魅力を磨き、世界に平和を発信する』

- ・整備方針の1番目なのに、検討プロジェクトが白紙。
- ・平和に対する長崎のハードの部分はお粗末である。全てのものをなくしてきた経緯があるため、それをどう取り組んでいくかを検討プロジェクトに入れるべき。
- ・平和を継承することについての公的、私的な教育をどうするのか入れるべき。
- ・市民・県民に伝える場合には、市民・県民の役割を明記したほうが分かり易い。
- ・一番目に国際平和とあるが、それほど言えるものがあるか心配。広島は積み重ねをされてこられたが、長崎の場合はある意味でそれを消し去ってきた。よっぽどの新しいプロジェクトがあれば別だが、実際には観光とか再開発とかが主で、そぐわないと感じる。
- ・パリのシテ島の資料館にはナチスドイツに迫害された人達のモニュメントは、第二次大戦後で最高のものだと思う。そういうものを長崎は造ってきたか、あるいは造ろうとしているのか。
- ・平和活動をされている方の後継者の育成が必要。特に長崎は若者の流出が多く、強化すべき。
- ・平和を伝えるためのテクニックを何か入れるべきと思う。

④-2 整備方針②『世界遺産候補など、多様な歴史・文化の資源を磨く』

- ・ゾーン区分ではまちなみ整備をもう少しシャープに、場所は小さくても良い。
- ・函館、小樽、港ではないけれど「おかげ横丁」は歩くと午前中3~4時間はつぶれる。
- ・長崎の歴史を勉強する修学旅行に変わりつつあり、この認識を持って資料やパンフレットを作ってほしい。
- ・看板等の整備や旧跡の見栄えを整備することが必要。石碑は多いが、当時をイメージさせるものなど観光客に見せる工夫が必要。

④－3 整備方針③『商業、産業、医療など資源の魅力を新たな視点で磨く』

○誘致ターゲットを絞り、楽しませる工夫が必要である

- ・クルーザーがこれから相当増えるだろうが1泊で次にいく。長崎の何処で楽しませるのか、限定して戦略的にまちづくりをしなければならない。
- ・リスボンでは、狭い谷あいのなかに、飯を食わせて、観光させて大人の夜を楽しむ場所を造っており、最後に丘の上の修道院からまちを見せて綺麗だろうという一日が出来ている。⇒別添資料
- ・中国の東北地方には日本人に好意をもっている人が多い。
- ・クルーズは、現状は朝早くに入って夕方6時くらいに出て行ってしまいが一泊させて、市内で食べてもらう。船中で長崎の見所を説明したり、資料を船においてもらうような工夫ができるのでは。
- ・中国クルーズ客船が入ってきたときは、中国国旗が並び、ウォンを使えるようにし、お金を落としてもらうプロジェクトを県・市・地元の商店街で協力してやった。それを活用したらどういう形になるのか、こういう風になるという形にプロジェクトを再編・修正していかなければならない。

○メディカルツーリズムを推進する必要がある

- ・長崎の特徴として医学のウェートが非常に高い。医者への地銀の貸し出し残高は他県より2倍位多い。
- ・地域のリハビリテーションも長崎が発祥地。一般向けのメニューがあってもいい

○まちづくりを担う人材育成やイベントの開催が必要である

- ・回遊性のまちづくりが上手く行っているところは、まち衆、老舗の後継者が中心的な役割を果たしている事例が多い。エリアマネジメントを中核に担う人材確保・育成、後継者が必要。
- ・お客からお金を落としてもらうことが必要である。商店街が何を提供するのか。関連団体との連携しながら、きちっとお金を作るようなものが具体的にあるべきと思う。
- ・イベント・行事の開催、連携が重要であり、ランタンフェスタのようなものを検討すべき。
- ・朝市については、客が呼べるのか。他の地域とどう差別化させているのか。

④－4 整備方針④『長崎の大景観の保全と形成、環境に配慮した都市機能を強化』

○景観については実施プロジェクトとして出していく必要がある

- ・都心にマンションが建ち、都市景観が悪化している。【再掲】

○環境にやさしい乗り物を検討したほうがいい

- ・レンタル電動サイクルなら長崎でも面白いと思う。

④－5 整備方針⑤『コンベンション機能等、官民一体となった都市機能の強化と新たな需要を創出する』

- ・まちなか周辺区域の中で、商業機能はアフターコンベンションの場となっているが、コンベンションシティとしての長崎市の役割も重要なファクターだ。やはり5000人規模のコンベンションを作っていただき、長崎に来てそこで遊んでいただくことを考えていただければ。
- ・コンベンション機能強化についての検討プロジェクトの内容や表現が分かりづらい。具体的な内容が何なのか、MICE、給食提供、ホテルの国際化などについてはもっと分かりやすい表現に変えるべきである。
- ・ホテル機能強化については、ウォシュレットトイレが設置されていないホテルもあり、課題は多い。

④－6 整備方針⑥「道路・公共交通・歩行者導線等のネットワーク整備を充実・強化する」

- ・観光客の行動に即したネットワークを考えるべき
- ・公共交通の料金は一日何を乗り継いでも定額とすることはできないか？
- ・観光ルートと電車のルートが合っているとかが解決策、対応策になる。
- ・クルーザーがこれから相当増えるだろうが1泊で次にいく。長崎の何処で楽しませるのか、限定して戦略的にまちづくりをしなければならない。【再掲】
- ・タクシーでの修学旅行を年間80校位やっている。事前に長崎の歴史を勉強し、自分の行きたい場所へ行きたい人同士が乗り合いをするもの。いっぺんにタクシーが100台くらい並んで観光する。
- ・レンタル電動サイクルなら長崎でも面白いと思う。【再掲】
- ・事例にある回遊性で上手く行っているところは「和」が基本であるが、長崎は違う。地形的にみると、都市を分断するような大きな道が入っていない。長崎は県庁所在地であり仕方ないが、鉄道や電車が回遊性を阻害しているなど、違いがある。

④－7 整備方針⑦『さるくまちとしての機能を充実・強化する』

- ・まちなかの回遊コースについてはさるくコースも多いが、稲佐方面の回遊性に欠ける。
- ・「おかげ横町」で革新的なのは、江戸時代のまちなみだけでなく江戸時代の生活の様子を再現したこと。
- ・長崎の石碑では、当時の文化は分からない。おかげ横町は芝居小屋があって当時の生活感が分かる。
- ・長崎で夜飲みに行くのはいいが、女性達は銅座にいても仕方がない。甘いものを食べたあとはライブ的なものを見られると夜が楽しい。

④－8 整備方針⑧『新幹線と国際・離島航路の接続による広域交通機能の魅力を向上する』

- ・中国の東北地方には日本人に好意をもっている人が多い。【再掲】
- ・クルーズは、現状は朝早くに入って夕方6時くらいに出て行ってしまいが一泊させて、市内で食べてもらう。船中で長崎の見所を説明したり、資料を船においてもらうような工夫ができるのでは。【再掲】

3－2. 区域別整備方針（検討案）について

⑤ゾーニング

- ・ゾーニングは分かりやすさを追求してほしい。
- ・区分けで何処から何処までがなに町か分かりにくい。
- ・浦上駅と長崎駅の間くらいまでは浦上周辺区域に含めてもいい。将来的には長崎港を中心に見据えるのであれば、こういう考えもあるのでは。
- ・まちなか周辺地域という言葉はなんか変だ。そこもまちなかだ。
- ・旧市街地の意味だと考える。長崎外の人から見るとなかなかイメージが沸きづらい。
- ・資料4で説明いただいた様々な整備方針は、プロジェクトのゾーニングしたものの中に割り振っていくということか。ゾーニングすることと、整備方針とプロジェクトのつながりが分からない。
- ・長崎の町は色々な歴史が輻輳していて、宗教の問題、被爆の問題、港から開けたという問題、それぞれが文化を抱えていることも含めて、それぞれの地域にそれぞれの重みがあるわけである。
- ・例えば、中国人が住んでいた唐人屋敷にしても、そこは長崎の歴史の大きな拠点になると思うが、ある意味では平和に関すること。被爆だけが平和ではない。長崎の歴史を辿っていく事によって平和と向き合っていくという作業が必要だ。

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第3回）議事概要

1. 日 時：平成21年10月20日（火）13：00～15：00
2. 場 所：長崎県庁中庭会議室
3. 出席者：都市再生委員会委員7名（脇田安大委員長、有馬一郎委員、伊藤滋委員、川添一巳委員、外井哲志委員、林一馬委員、平野啓子委員）
（欠席4名：梁瀬正輝委員、山口純哉委員、米倉邦彦委員、渡邊貴史委員）
都市再生委員会事務局
長崎県 副知事（藤井 健）、知事公室長（田中桂之助）、知事公室参事監（加藤 永）、
まちづくり推進室長（山口洋三）、まちづくり推進室（浦瀬俊郎、添川信一）
長崎市 副市長（椎木恭二）、都市計画部長（馬場敏明）、都市計画部次長（池田 宏）、
まちづくり推進室長（佐藤順次郎）、まちづくり推進室（田畑徳明、飯田恭祥、濱崎一弘）
4. 内 容：
(事務局)
 - ・資料1,2（一部6,7）,3の説明。→説明内容は省略
(委員長)
 - ・何か質問等あるか。
→特になし
(事務局)
 - ・資料4-1、4-2について説明。→説明内容は省略
(委員)
 - ・キャッチフレーズの国際ゲートウェイを国際平和に修正し、目標の順番は国際ゲートウェイを最後にしてある。
 - ・整備方針も5つから8つに増やし、ハード中心からソフト路線に変更してあり、すっきりとなった印象。
(委員)
 - ・民主党政権となってこれからどうなるか見えてこない。
 - ・そういったなかで今までの意見を集約してよくまとめられたというところが大きいと思う。
 - ・新幹線、県庁移転、オリンピックなど、どうなっていくのだろうか。
(事務局)
 - ・新幹線については補正予算で10億円ついてはいたが、凍結されていない。来年度概算要求も総額は例年どおり。
 - ・未着工区間は白紙の取り扱いだが、駄目だとは言っていない。
 - ・新政権も新幹線の必要性は理解いただいている。
(委員)
 - ・新幹線が非常に重きをなしており、来るか来ないかで私達の議論に大きな影響があるので心配している。
 - ・よくまとめてあるが、ひとつひとつ実行することが難しい。民の力が必要。民と官の合わせ方が大切。
(委員)
 - ・目標Ⅰの「平和・文化都市の魅力の強化」は大胆だと思う。平和をこれだけ表に出して良いのか。整備方針の中に掲げるのはいいのかなと思う。
 - ・新しい目標として成立するのか。ソフト面はわかるが、まちが向かっていけるほどの素地や力があるのか。
 - ・都市構造の改変をどうするのかと、都市の魅力をどのように磨いていくかは網羅されている。
 - ・目標の掲げ方について、1番目に「都市魅力の強化」とし、中の項目に平和というのを入れるのかどうか、2番目に「回遊機能の強化」、3番目に「ゲートウェイ機能」という、分かり易いものにしたらどうか。
(委員)
 - ・「平和都市の魅力磨き、世界に平和を発信する」が1番目にあるのに、検討プロジェクトが白紙である。
 - ・平和に対する長崎のハードの部分はお粗末。全てのものをなくしてきた経緯があるため、それをどう取り組んでいくかを検討プロジェクトに入れるべき。
 - ・平和を継承することについての公的、私的な教育をどうするのか入れるべき。
 - ・市民・県民に伝える場合には、市民・県民の役割を明記したほうが分かり易い。
(委員)
 - ・観光と一般の住民は分けたほうが良いのではないかと。観光を重点的にやりながら一般の住民にも重なるものを作っていきのが良い。
 - ・観光客が安心してできるだけ沢山廻れるように、観光客の行動に即したネットワークを考えないといけない。

- ・公共交通の料金を一日何を乗り継いでも定額とすることはできないか？
- ・観光ルートと電車のルートが合っているとかが解決策、対応策になる。

(委員)

- ・クルーザーがこれから相当増えるだろうが1泊で次にいく。長崎の何処で楽しませるのか、限定して戦略的にまちづくりをしなければならない。
- ・リスボンでは、狭い谷あいのなかに、飯を食わせて、観光させて大人の夜を楽しむ場所を造っており、最後に丘の上の修道院からまちを見せて綺麗だろうという一日が出来ている。
- ・ゾーン区分ではまちなみ整備なんかをもう少しシャープに、場所は小さくても良いから入れてはどうか。
- ・函館、小樽、港ではないけれど「おかげ横丁」は歩くと午前中3~4時間つぶれる。
- ・観光戦略は一泊なのでそれにあった記述が必要。
- ・中国の東北地方には日本人に好意をもっている人が多い。

(委員)

- ・タイトルとしては国際ゲートウェイより平和の方がずっといいが、平和もどこまでの覚悟があるのか。
- ・観光が主要産業であると書いてあるが、せいぜい5%ぐらいしかない。波及効果も含めて1割弱。
- ・長崎の特徴として医学のウェートが非常に高い。医者への地銀の貸し出し残高は他県より2倍位多い。
- ・都心にマンションが建ち、都市景観が悪化している。課題に是非入れてほしい。景観改善をやるべき。
- ・「長崎は観光のフロントランナーであれ」と認識。「さるく」で長崎が日本の体験型観光をリードしている。
- ・「おかげ横丁」で革新的なのは、江戸時代のまちなみだけでなく江戸時代の生活の様子を再現したこと。
- ・長崎の石碑では、当時の文化は分からない。おかげ横丁は芝居小屋があって当時の生活感が分かる。
- ・長崎で夜飲みに行くのはいいが、女性達は銅座にいても仕方がない。甘いものを食べたあとはライブ的なものを見られると夜が楽しい。
- ・メニューは優先度とか目玉になるものをつくる必要がある。県と市がやるもの、市が単独でやるものとか、民間が主にやるもの等、カテゴリの仕分けをしたほうが良い。

(事務局)

- ・定額制は2006年に実験的にバス、電車、観光施設を組み込んでやったが、継続は困難であった。観光客のアクティビティからみると重要と感じており、今後探っていくことも必要。
- ・内容については市が考えるべき課題が多い。
- ・平和の発信、被爆都市としての使命をどのように果たしていくのかは、市としてもある意味、一步を踏み出せずに留まっていた。最終的な資料としては全体計画のなかで収まるように検討し、県と相談していく。
- ・プライオリティが重要。行政がやるもの、民間がやるものなど、行動パターンに着目しての整理が必要。
- ・景観については実施プロジェクトとして出していく必要がある。

(事務局)

- ・「観光」と言う言葉を長崎では単にツーリズムでなく、本来の意味に戻しましょうと言うこと。
- ・テーマパークではなく、オリジナルの観光の意味を発信できる都市に戻るべき。

(委員)

- ・クルーズは、現状は朝早くに入って夕方6時くらいに出て行ってしまいが一泊させて、市内で食べてもらう。
- ・船中で長崎の見所を説明したり、資料を船においてもらうような工夫ができるのでは。

(事務局)

- ・フライ&クルーズで、長崎から発着できるようなCIQ(入国手続)の体制ができていないが、今年度末に国際ターミナルを整備することとしている。
- ・来年上海万博があり、相当上海との間でクルーズが増えるだろう。上海航路を定期航路とするわけにはいかないうと思うが、事実上、上海航路を復活するのに相応しい効果を目指していこうと考えている。
- ・中国クルーズ客船が入ってきたときは、中国国旗が並び、ウォンを使えるようにし、お金を落としてもらうプロジェクトを県・市・地元の商店街で協力してやった。それを活用したらどういう形になるのか、こういう風になるという形にプロジェクトを再編・修正していかなければならない。

(委員)

- ・タイトルについてだが、平和が重いかなという感じと、これまで逃げていたのかなという感じもあり、自分を叱咤激励する意味で入れておいたほうが良いと感じている。

(委員)

- ・平和は、県・市に覚悟というものがあ、市民も含めて覚悟を決めた上で入れて欲しい。市民・県民に対する

覚悟の確認みたいなものも素案に出てくればいいのか。

(委員長)

- ・この議論は議会での議論やパブリックコメントを実施されると思うので、とりあえず平和を入れた形でいき、その上で皆さんの声を聞いて、修正することもありえるという感じで如何か。

(委員)

- ・一番目に国際平和とあるが、それほど言えるものがあるか心配。広島は積み重ねをされてこられたが、長崎の場合はある意味でそれを消し去ってきた。よっぽどの新しいプロジェクトがあれば別だが、実際には観光とか再開発とかが主で、そぐわないと感じる。
- ・ヨーロッパでは、ナチスにやられてきた街のほうはるかに実践されているが、長崎は弱いと感じる。パリのシテ島の資料館にはナチスドイツに迫害された人達のモニュメントがあるが、第二次大戦後で最高のモニュメントだと思う。そういうものを長崎は造ってきたか、あるいは造ろうとしているのか。
- ・観光は、住んでいる人達が心地よく快適に暮らしている中に、「自分も参加させてください」というのが原点。

(委員長)

- ・平和の案件については事務局で意見を受けて再整理。
- ・この件に関してはペンディングにする。

(事務局)

- ・資料5の区域別整備方針の説明。→説明内容は省略

(委員)

- ・区分けで何処から何処までがなに町か分かりにくい。分かりやすくして欲しい。
- ・タクシーでの修学旅行を年間80校位やっている。事前に長崎の歴史を勉強し、自分の行きたい場所へ行きたい人同士が乗り合いをするもの。いっぺんにタクシーが100台くらい並んで観光する。
- ・長崎の歴史を勉強する修学旅行に変わりつつあり、この認識を持って資料やパンフレットを作ってほしい。

(委員)

- ・まちなか周辺区域の中で、商業機能はアフターコンベンションの場となっているが、コンベンションシティとしての長崎市の役割も重要なファクターだ。やはり5000人規模のコンベンションを作っていただき、長崎に来てそこで遊んでいただくことを考えていただければ。

(委員)

- ・浦上駅と長崎駅の間くらいまでは浦上周辺区域に含めてもいい。将来的には長崎港を中心に見据えるのであれば、こういう考えもあるのでは。
- ・まちなか周辺地域という言葉はなんか変だ。そこもまちなかだ。

(委員)

- ・旧市街地の意味だと考える。長崎外の人から見るとなかなかイメージが沸きづらい。

(委員)

- ・資料4で説明いただいた様々な整備方針は、プロジェクトのゾーニングしたものの中に割り振っていくということか。ゾーニングすることと、整備方針とプロジェクトのつながりが分からない。
- ・長崎の町は色々な歴史が輻輳していて、宗教の問題、被爆の問題、港から開けたという問題、それぞれが文化を抱えていることも含めて、それぞれの地域にそれぞれの重みがあるわけである。
- ・例えば、中国人が住んでいた唐人屋敷にしても、そこは長崎の歴史の大きな拠点になると思うが、ある意味では平和に関すること。被爆だけが平和ではない。長崎の歴史を辿っていく事によって平和と向き合っていくという作業が必要だ。

(委員長)

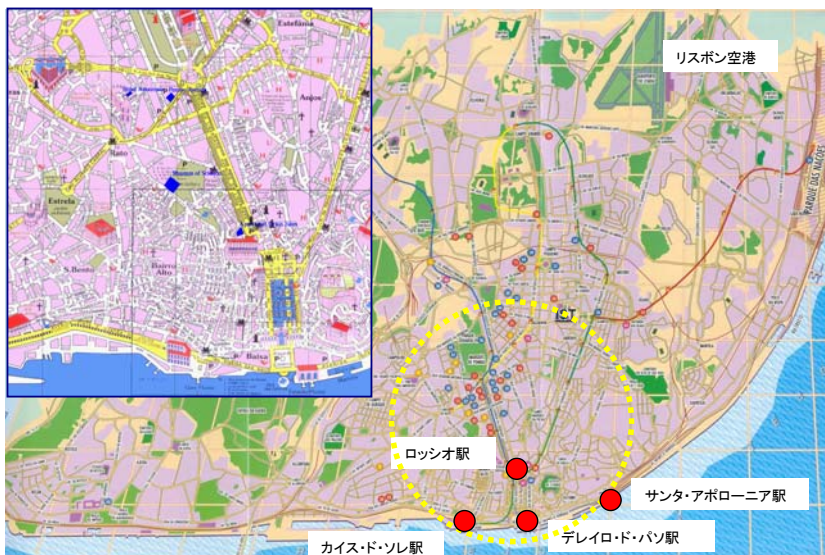
- ・その辺りは事務局のほうで再整理。地域別計画を作るわけではない。分かりやすさを追求して欲しい。

(事務局)

- ・再整理する。

事例:リスボン(ポルトガル)1/2

「七つの丘の都」と言われるほど、リスボンには丘が多く、サン・ジョルジェ城をはじめとして、高台からリスボン市内を一望のもとに見下ろせることを売り込んでいる観光地が多い。



サン・ジョルジェ城

(Castelo de São Jorge)



セニョーラ・モンテ展望台

リスボンの町並みを一望



事例:リスボン(ポルトガル)2/2

交通

セッテ・コリーナシュ

リスボン市内観光向けに、Carris社が運行する**バス**、**地下鉄**、**市電**、**ケーブルカー**及び**サンタ・ジュスタのエレベーター**に**乗り放題**のパス、セッテ・コリーナシュ (7 Colinas) が販売されている。値段は発行手数料込みで1日券が€3.85、他に5日券がある。持っていると非常に便利である。



カイス・ド・ソレ駅に隣接する形でフェリー乗り場があり、そこからテージュ川を渡る連絡船に乗って対岸のカシーリャス (Casilhas) やモンディージョ (Montijo) まで行くことができる。

リスボン中心部にはホテル、レストラン、ショッピングモールが集積している。



世界遺産

Monastery of the Hieronymites and Tower of Belem in Lisbon

登録種別文化遺産登録年1983年



ジェロニモス修道院 (世界遺産)



ベレンの塔(世界遺産)